

# 潰瘍性大腸炎における過敏性腸症候群と大腸内視鏡所見

過敏性腸症候群（irritable bowel syndrome；IBS）は、反復する腹痛や腹部不快感に便通異常を伴い、器質的疾患を腸管に認めない機能性消化管疾患ですが、寛解期潰瘍性大腸炎（UC）症例の約30%にIBS様症状が認められます。



寛解期 UC においても、約 45%では大腸内視鏡的に軽微な炎症が残存することが明らかとなっており、炎症が残存している症例では、IBS 様症状を有する率が高いことが報告されています。

